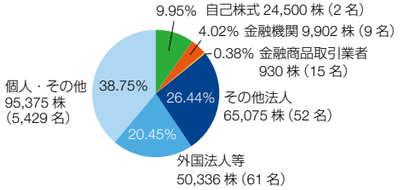
会社概要・株式状況（2012年3月31日現在）

会社概要	商号	エン・ジャパン株式会社（en-japan inc.）
	設立	2000年1月14日
	本社所在地	〒163-1335 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
	資本金	9億7,781万円
	従業員数	659名（連結：795名）
関連会社	連結子会社	ウォールストリートアソシエイツ株式会社 ※2012年4月1日よりエンワールド・ジャパン株式会社に社名変更しております。
	持分法適用会社	英才網聯（北京）科技有限公司
役員（2012年6月27日現在）	代表取締役会長	越智　通勝
	代表取締役社長	鈴木　孝二
	常務取締役	藤野　孝
	取締役	河合　恩
	取締役	クレイグ・サフィン
	常勤監査役	戸次　正三
	監査役	久須美　康徳　　大島　信衛
株式の状況	発行可能株式総数	936,000株
	発行済株式の総数	246,118株
	株主数	5,568名

大株主

株主名	持株数（株）	議決権比率（%）
越智　通勝	40,619	17.38
有限会社えん企画	26,490	11.33
有限会社エムオー総研	20,800	8.90
一般財団法人 エン人財教育センター	15,300	6.54
資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）	12,000	5.13

所有者別分布



当社は、平成22年2月19日取締役会において、「株式給付信託（J-ESOP）」を導入することを決議いたしました。この導入に伴い、平成22年4月1日付けで自己株式12,000株を資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）へ拠出しております。なお、自己株式数については、平成24年3月31日現在において信託E口が所有する当社株式（12,000株）を自己株式数に含めております。

株主メモ

事業年度	4月1日～3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理人	同上
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://corp.en-japan.com/

お知らせ

●株主様の各種お手続きについて

株主様の住所変更、配当金振込指定書その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社の本支店でお支払いいたします。

●特別口座について

特別口座に記録された株式に関するお手続き（株主様ご本人名義の証券会社口座への振替請求・住所変更・配当金の振込先指定等）につきましては、下記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）へお問い合わせください。なお、特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社の全国各支店でもお取り次ぎいたします。

口座管理機関　三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先　三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
0120-232-711（通話料無料）

エン・ジャパン株式会社

〒163-1335 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
TEL：03-3342-4506 FAX：03-3342-4507
E-mail：ir-en@en-japan.com
URL: http://corp.en-japan.com/

エン・ジャパン株式会社

報告書

2011年1月1日から
2012年3月31日まで

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
　２０１２年３月期業績及び今後の経営方針をご説明する報告書をお届けいたします。

　当期は、東日本大震災、タイの大洪水、欧州の財政危機などにより、事業環境の悪化が懸念される場面もありましたが、雇用情勢は回復傾向が続きました。
　当社は、主力の「[en]社会人の転職情報」において、戦略商品と位置付けている成功報酬サービスの販売を強化し、計画通りの成果を上げることができました。
　また、２０１１年１月に中国・上海、２０１１年５月にシンガポール、２０１２年４月には香港に拠点を開設するなど、海外展開も積極的に推進いたしました。
　一方で、第二の柱とすべく取組んできた「エン・ウエディング」「FINE」につきましては、撤退、事業移管という決断をいたしました。損失を出すことになってしまい、大変申し訳ございませんでした。
　今後につきましては、当社の強みが活かせる人財関連事業の強化に取組んでまいります。

　株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援とご理解を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

２０１２年６月

代表取締役会長 越智 通勝
代表取締役社長 鈴木 孝二

Topics

「[en]社会人の転職情報」をリニューアル（2011年12月）
掲載案件数が転職サイト最大級に！

　総合転職情報サイト「[en]社会人の転職情報」のリニューアルを行いました。業界初となる「あなたを求める企業コーナー」を新設し、各求職者に興味を持っている企業を一覧表示し、求職者が自身のキャリアや経験を活かせる求人がわかるようになりました。
　また、人材紹介会社の案件も掲載されるため、転職サイト最大級の公開求人情報が掲載され、求職者にマッチした案件に出会える可能性が高まりました。

就職・転職に活かせる口コミサイト「カイシャの評判」をオープン（2011年11月）
口コミ掲載社数 8,000社に！

　「社風」「年収」や「勤務時間」といった気になる情報を、在籍（過去も含む）社員による口コミをもとに提供するサイト「カイシャの評判」をオープンいたしました。応募前に確認することで、会社の雰囲気を知ることができる他、面接対策としても活用することができます。

2012年6月よりイメージキャラクターにサッカー日本代表　長谷部誠さんを起用
積極的な広告展開を実施

　長谷部さんは、ドイツ・ブンデスリーガ　VfLヴォルフスブルクに所属し、サッカー日本代表の主将としても活躍される他、2011年には著書「心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣」を発表され、ベストセラーとなりました。このように日本国内外で活躍され、真摯に仕事に取組む長谷部さんのイメージが当社のサービス及び支援する求職者のイメージと合致することから、イメージキャラクターに起用いたしました。
　積極的な広告展開により、当社のブランドイメージ向上を図ってまいります。

※更に詳しい情報はこちらから http://corp.en-japan.com/newsrelease/index.php

主力事業が好調に推移し、増収増益を達成しました。

売上高

15,687百万円（前年比21.7%増）
※前年15ヵ月想定比

営業利益

3,047百万円（前年比33.6%増）
※前年15ヵ月想定比

Q 2012年3月期は、期初に東日本大震災が発生しましたが、事業環境としてはいかがでしたか。

A まず、東日本大震災で被災された皆さま方に心よりお見舞い申し上げます。

当社も、求人サイトを運営する企業として、自社サービスを通じて支援の取組みをさせていただきました。

事業環境としては、東日本大震災の影響により、一時的に企業の人材採用活動が停止するなどの動きがありましたが、再開後は新規求人数の増加傾向が続き、マーケット環境の改善が進みました。

Q 15カ月の変則決算で、前年との比較が難しいのですが、15カ月想定と比べた場合でも、増収増益となりました。

A そうですね、マーケット環境が堅調であったことに加え、注力している「[en]社会人の転職情報」の成功報酬サービスの拡販が進んだこと、グローバル企業の旺盛な人材採用意欲に牽引され、子会社であるウォールストリートアソシエイツ株式会社が計画を上回る結果となったことにより、良い業績となりました。

Q 一方で、新規事業は苦戦が続きました。

A 事業環境の変化等もあり、当初計画と進捗の乖離が大きいため、結婚式場情報サイト「エン・ウエディング」は撤退、経営人事戦略システム「FINE」は関係会社への移管を決定いたしました。

Q 今後は人財関連事業に注力するのでしょうか。

A 当面は、当社のブランド力や強みが活かせる領域での事業展開を優先させるつもりです。2012年3月期にも成果を上げた成功報酬サービスを更に強化しますし、グローバル企業向け人材紹介サービスの海外展開も推進します。

また、2010年に開始した定額制研修サービス「エンカレッジ」は2011年10月に単月黒字化を実現しました。会員企業数を更に増やし、安定収益基盤として育成を進めます。

Q 2013年3月期の見通しはいかがでしょうか。

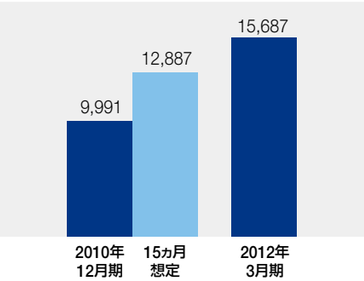
A マーケット環境は、回復傾向が続くと見ています。そういった中で先に述べたような取組みを行う予定です。成功報酬サービスに関しては、より成果を高めるためにトライアルを実施していくことになります。その成果をもって、2014年3月期につなげたいと思っています。

Q 配当についてはいかがでしょうか。

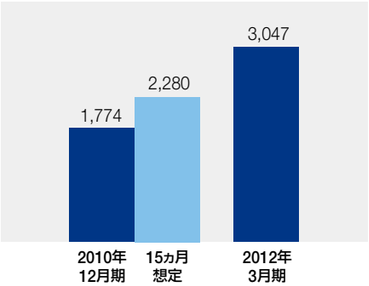
A 2012年3月期は、特別損失を計上したため当期純利益は計画を下回る結果となりましたが、既存事業が好調で、大きな投資もなかったことから、基本方針とは異なる配当額とさせていただきました。2013年3月期は、基本方針通りの配当とさせていただく予定です。

今後とも、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

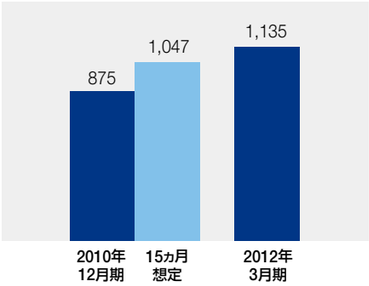
売上高（百万円）　各種営業戦略が奏功し、計画を上回って着地



営業利益（百万円）　経費の効率的な使用や抑制に努めた結果、大幅な増益を達成



当期純利益（百万円）　6.8億円の特別損失を計上したが、前期比、15ヵ月想定比ともに増益を確保



※前年15ヵ月想定は参考情報として2010年1月～2011年3月までの数字を使っております。

中期経営計画の前提

当社は2011年2月に新しい成長戦略として3カ年の中期経営計画を策定し、発表いたしました。景気の影響を受けやすい人財関連事業を中心に行っていたことから、そのリスクを解消する必要があると考え、そのための取組みを中期経営計画に盛り込みました。

中期経営計画 2011年▸2013年 の概要

中期方針

Ⅰ.「入社後の活躍」にこだわり、サービスの高付加価値化を図る。

Ⅱ.「en」ブランドで築いた資産を活用し、第二の柱となる事業を立ち上げる。

基本施策

1) 求人情報サイトを中心とした既存事業の強化により収益の最大化を図る
2) 人材紹介事業等の新たな人財関連事業をグローバル展開し、収益を拡大する
3) 人財関連事業以外の「第二の柱」となる事業を早期育成し、新たな収益基盤を構築する

当期の進捗状況

2012年3月期はこれらの中期方針、基本施策に則って事業運営を行いました。

Ⅰ 「入社後の活躍」にこだわり、サービスの高付加価値化を図る

[en]社会人の転職情報

成功報酬サービスの拡販を推進し、計画通りの成果を上げることが出来た。

en world Japan

グローバル企業向け人材紹介サービスブランドとして「en world」を制定、ウォールストリートアソシエイツも「エンワールド・ジャパン株式会社」に社名変更し、グローバル展開を本格的に始動した。

[en]学生の就職情報

中堅・中小・ベンチャー企業に特化したサイトとして、学生及び企業からの認知が更に高まった。

エンカレッジ

2010年にサービスを開始以来、高い満足度を維持しながら会員企業数が順調に増加。同時に、効率化によりコスト削減も進み、2011年10月に単月黒字化を達成した。

[en]チャレンジ！はた☆らく

派遣法の改正や雇用環境の変化により、非正規雇用マーケットの拡大・多様化が進むと想定し、大幅な成長を見込んでいた。2012年3月期については増収となったものの、当社の営業戦略の変更等もあり、中期経営計画で見込んだ規模への拡大は難しいと判断し、減損損失を計上した。

Ⅱ 「en」ブランドで築いた資産を活用し、第二の柱となる事業を立ち上げる

エン・ウエディング

新規参入が難しいマーケットであること、震災の影響により事業環境が変化したこと等により、当初見込んだ規模への拡大は困難と判断し、事業撤退を決定した。

FINE

当社の顧客基盤と、FINEが効果を発揮する顧客層に若干ズレがあったため、関係会社であるラクラス株式会社への事業移管を決定した。

事業方針

人材マーケットの変化スピードが速く、中期計画策定時と現状では、前提条件に乖離が生じてきていることから中期計画を見直すことにいたしました。

●人財関連事業以外の第二の柱の立ち上げは、一旦ストップ
●人財関連事業におけるサービスラインアップの拡充を図り、成長を目指す

今後は、「en」ブランドが活かせる領域での事業展開に注力し、成長を目指してまいります。

＜当面の事業方針＞

●成功報酬サービスに注力。今後の成長ドライバーとする

2013年3月期は全社をあげて成功報酬サービスに注力する。各種トライアルを実施するため、成果が安定するまでには一定期間を要する。

●海外事業を積極的に推進し、グローバル展開の基盤を構築する

アジア太平洋エリアでの人材紹介事業を推進するため、複数の拠点開設を行う。現地でのM&Aも必要に応じて検討するが、エンワールド・ジャパンの社員が立ち上げることを基本方針とする。

この事業方針に基づき、事業運営を行ってまいります。成功報酬サービスの各種トライアルが終了し、且つ海外展開の方向性が描けた後、中期計画を策定し直し、改めてお知らせさせていただきます。

当社を取巻く環境認識

採用マーケットは回復・拡大が進む

当社は、インターネットを活用した求人情報サービスを展開し、成長を続けてきました。成長の背景には、

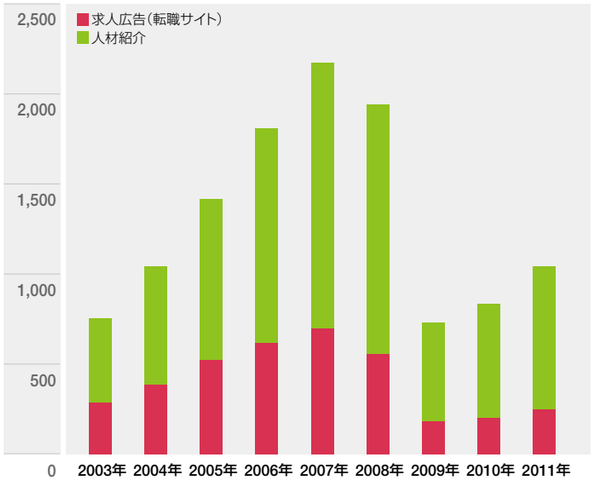
・インターネット黎明期からいち早くサービスを開始していたこと
・サービスの質をお客様から評価いただけたこと
・求人情報サービスの紙からネットへの移行が進んだこと

といったことがありました。しかし、求人情報サービスの紙からネットへの移行も一巡しました。「転職サイト」のマーケット規模はリーマンショック後大きく落ち込み、徐々に回復しつつありますが、過去の規模に戻ることはないと思われます。

一方、同類のサービスである「人材紹介」も、「転職サイト」同様にリーマンショック後にマーケットは縮小したものの、現在は回復傾向にあり、そのスピードは速まっています。

企業の人材採用基準が高くなり、厳選採用が今後も継続する中では、「人材紹介」のマーケットは更に回復・拡大が進むと見ています。

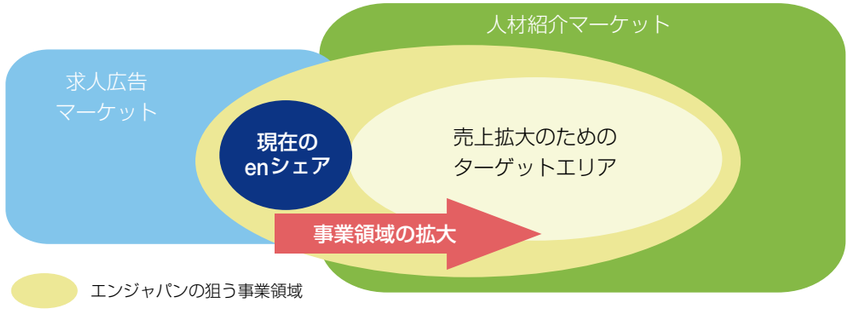
求人広告・人材紹介マーケット　規模推移（自社調べ）



エン・ジャパンの事業領域

事業領域を「人材紹介」マーケットへ拡大し、更なる成長を目指す

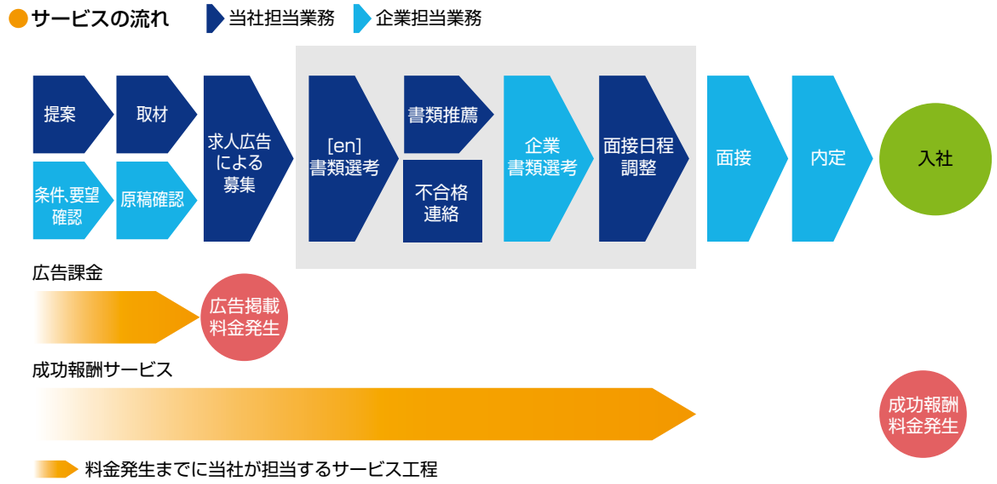
このような状況を踏まえ、当社は成功報酬サービスへのシフトを加速することにいたしました。成功報酬サービスは、当社がこれまで培ってきた転職サイトとしての強みと人材紹介サービスの利点を組み合わせたものです。成功報酬サービスの育成により、「人材紹介」マーケットへサービス領域を拡大し、更なる成長を目指します。



成功報酬サービスの強化

「成功報酬サービス」を新たな成長ドライバーへ

従来の広告型課金と成功報酬サービスの違い



成功報酬サービスは、従来の求人広告同様に、募集広告をサイトに掲載しますが、掲載した段階では料金は発生しません。求職者が入社した段階で料金が発生します。上記の図にあるように、一部の業務を当社が代行するため、料金は求人広告よりも高くなります。そのため、成功報酬サービスを利用して採用する人材と求人広告で採用する人材はターゲットが異なります。つまり、従来の事業領域と重なることはありません。

しかし、求職者が入社しなければ料金が発生しないため、入社成約率を高める必要があります。そこで当社は、求職者がより多く集まるために魅力的な案件を掲載するとともに、サイトの利便性向上に取組みます。魅力的な求職者が多ければ、企業もターゲット人材を採用できる可能性が高まるため、相乗効果が得られるのです。

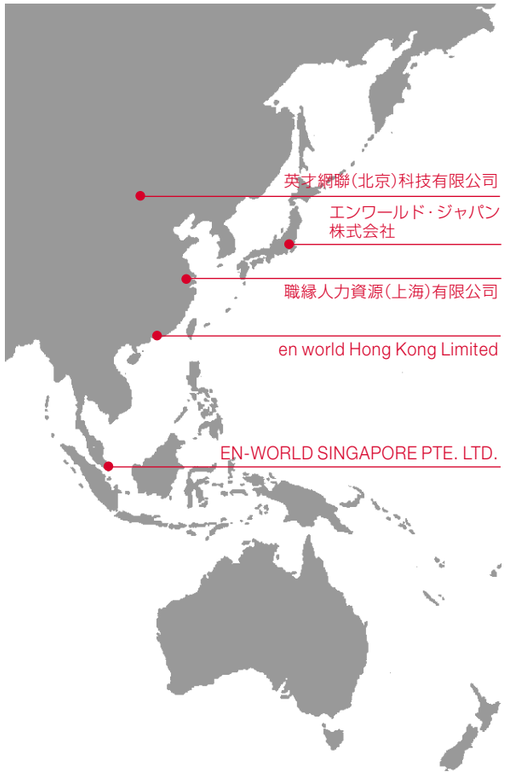
大きな成長ドライバーとして、その育成に注力します。

海外展開

アジア太平洋エリアにおける事業展開を推進

アジア太平洋エリアは、経済成長が見込まれることから、世界中の企業が進出しています。そのため、人材採用ニーズも旺盛で、マーケットの拡大が大いに期待できます。

当社は、子会社であるエンワールド・ジャパン株式会社のリソースを活用して、アジア太平洋エリアへの展開を進めています。2011年5月にシンガポール拠点を設立し、9月から事業を開始しました。また、2012年4月には香港に拠点を開設し、事業をスタートしています。今後も、複数の拠点開設を計画しており、その準備は順調に進んでいます。



また、日本国内においてもグローバル企業の人材採用意欲が衰える兆しは見えません。エンワールド・ジャパンの体制強化を行い、業績拡大に向けて取組んでいきます。

EN-WORLD SINGAPORE PTE. LTD.

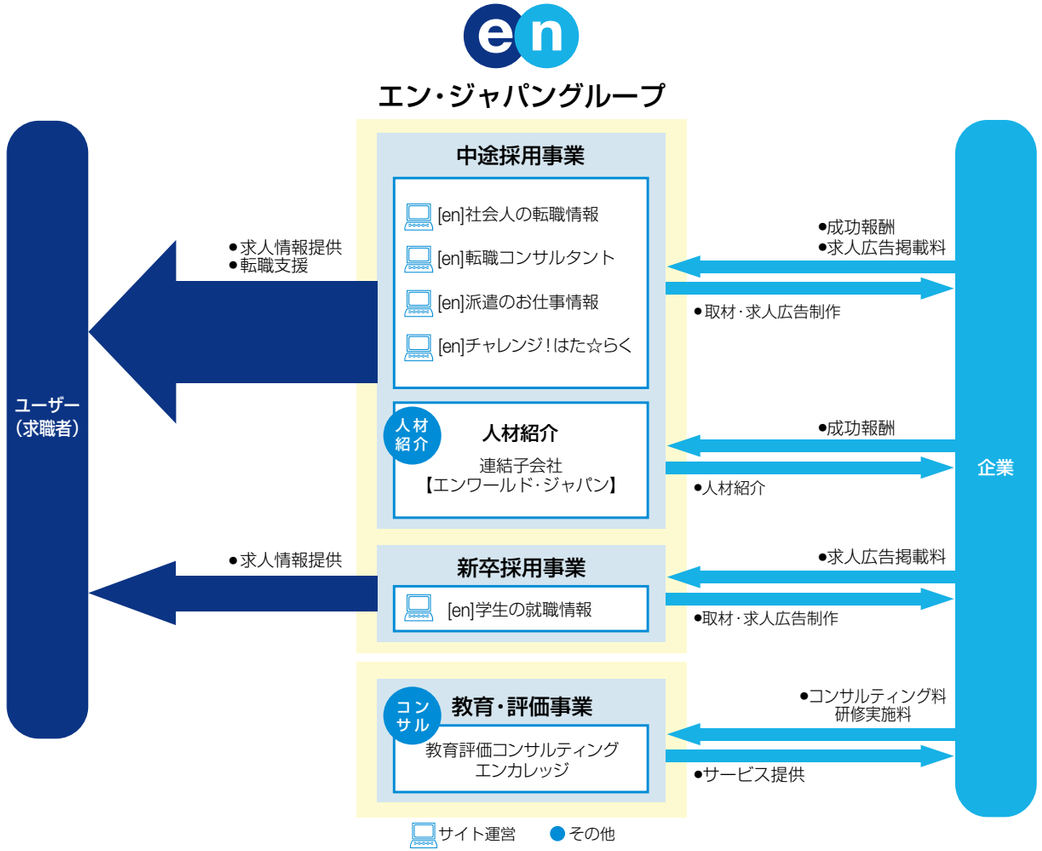
エンワールド・ジャパンの大阪オフィス代表を務めていたPaul Dupuisが中心となり、事業を行っています。日本から異動したスタッフ、現地でジョインしたスタッフ等がおり、グローバル感が溢れるオフィスとなっています。

既に成果も出ていますが、よりスピードをあげて成長できるよう、取組んでまいります。

エン・ジャパングループのビジネス

当社は、インターネット上に求人広告を掲載する求人情報サイトの運営及び人材紹介サービスを展開するとともに、顧客企業における採用活動と人材育成を支援する教育・評価事業を行っています。

入社した企業で定着し、活躍していただくために、当社は求職者の立場に立った情報を提供することで、求職者と企業から高い支持を獲得しています。



セグメント別売上高

（2011年1月1日から2012年3月31日まで15ヵ月）

●中途採用事業　企業の人材採用意欲が高い状態が続いたことから、「[en]社会人の転職情報」、「[en]派遣のお仕事情報」、「[en]チャレンジ！はた☆らく」、en world Japanは増収となりました。

売上高	（百万円）
[en]社会人の転職情報	6,190
[en]転職コンサルタント	989
[en]派遣のお仕事情報	2,280
[en]チャレンジ!はた☆らく	1,170
en world Japan	2,863

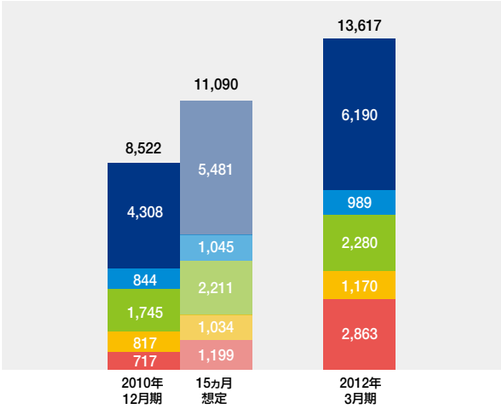
●新卒採用事業　新卒採用活動の開始時期が例年より2カ月遅くなったものの、サイト掲載だけでなく新卒採用のトータルサポートを提案・受注したことから、1社当たりの受注単価が上昇し、増収となりました。

売上高	（百万円）
[en]学生の就職情報	1,399

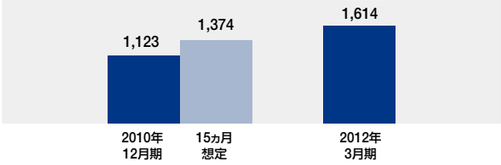
●教育・評価事業　会員企業数の増加やコスト削減などにより定額制研修サービス「エンカレッジ」の単月黒字を達成した他、テスト売上が増加しました。

●その他事業　「エン・ウエディング」は、掲載単価の上昇により増収、コスト削減により営業損失は縮小しました。「FINE」も新規受注により増収となりました。

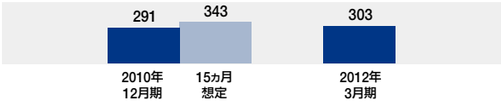
中途採用事業　（百万円）



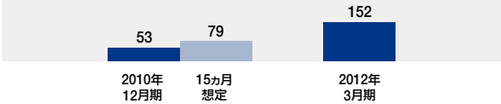
新卒採用事業　（百万円）



教育・評価事業　（百万円）



その他事業　（百万円）



※15ヵ月想定は参考情報として2010年1月～2011年3月までの数字を使っております。

財務ハイライト

※決算期の変更(12月31日を3月31日)に伴い、当期は2011年1月1日から2012年3月31日までの15ヵ月の変則決算となっております。

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円、端数切捨て)

科目	前期 2010.1.1～2010.12.31	当期 2011.1.1～2012.3.31
売上高	9,991	15,687
売上原価	1,636	2,393
売上総利益	8,354	13,294
販売費及び一般管理費	6,579	10,246
営業利益	1,774	3,047
営業外収益	92	127
営業外費用	63	290
経常利益	1,803	2,884
特別利益	—	40
特別損失	206	687
当期純利益	875	1,135

営業利益

売上が好調に推移したことに加え、経費の効率的な使用や抑制に努めたことから、営業利益は計画を上回り30.4億円となりました。

特別損失

「エン・ウエディング」の事業撤退や「FINE」の事業移管に伴う減損損失として1.3億円を計上しました。また、「[en]チャレンジ！はた☆らく」の当期・来期以降の業績見通しを勘案したことによる減損損失などもあり、特別損失は6.8億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円、端数切捨て)

科目	前期 2010.1.1～2010.12.31	当期 2011.1.1～2012.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,886	2,822
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,502	△771
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,713	△269
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	△329	1,780
現金及び現金同等物の期首残高	6,214	5,884
現金及び現金同等物の期末残高	5,884	7,665

投資活動によるキャッシュ・フロー

前期はエンワールド・ジャパンの子会社化に伴う支出がありました。当期は子会社株式取得による支出等ありましたが、定期預金の払戻しによる収入もあり、投資活動に使用した資金は7.7億円となりました。

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円、端数切捨て)

科目	前期 2010.1.1～2010.12.31	当期 2011.1.1～2012.3.31
資産の部		
流動資産	7,954	9,550
現金及び預金	6,184	7,815
受取手形及び売掛金	1,241	1,303
その他	532	437
貸倒引当金	△3	△6
固定資産	6,657	6,533
有形固定資産	605	539
無形固定資産	2,355	2,170
投資その他の資産	3,696	3,823
資産合計	14,612	16,084
負債の部		
流動負債	2,226	2,373
買掛金	49	33
その他	2,177	2,339
固定負債	50	128
負債合計	2,277	2,502
純資産の部		
株主資本	12,115	13,085
資本金	970	977
資本剰余金	1,437	1,444
利益剰余金	13,144	14,101
自己株式	△3,438	△3,438
その他の包括利益累計額	169	496
その他有価証券評価差額金	169	507
為替換算調整勘定	−	△10
純資産合計	12,334	13,581
負債・純資産合計	14,612	16,084

資産合計

当期は、前期に比べ14.7億円増加し、160.8億円となりました。これは現金及び預金が16.3億円増加したことが主な要因です。

流動負債・その他

未払法人税等が4.6億円減少したものの、未払金が2.9億円、賞与引当金が2.0億円増加したことなどにより、23.3億円となりました。

株主資本

利益剰余金が9.5億円増加したこと等により、株主資本は130.8億円となりました。